

「三菱自動車らしさ」の追求

自動車業界が100年に一度の変革期を迎えている中、三菱自動車が事業活動を通じてお客様や社会に存在意義を認められ、価値を提供し続けていくためには、高い技術を維持し、価値ある製品とサービスを社会に送り出して行くことが重要であると考えています。

当社は地球環境と大切な人を守る「環境×安全・安心・快適」に裏付けられた信頼感により、冒険心を呼び覚ます、心豊かなモビリティライフをお客様にお届けします。

「三菱自動車らしさ」を表現したPHEV

当社は1964年から電動化技術の開発に取り組み、2009年に量産初の軽乗用電気自動車（EV）『i-MiEV』、2013年にプラグインハイブリッド車（PHEV）『アウトランダー PHEV』を発売しました。当社の電動化技術は、取り組み当初からの大気汚染、省エネルギーなどの社会問題に加え、近年では地球温暖化対策の解決策として期待されています。

PHEV開発の背景には、2011年3月に発生した東日本大震災直後に、自動車用燃料の供給が困難な状況に陥った中、電気の復旧は比較的早かったことから、被災地に約100台の『i-MiEV』を提供したところ、駆動用電池に蓄えた電気を使用できないかとの強い要望がありました。そうした被災地の声に応えられるよう、EVの課題のひとつであった「航続距離の長さ」を解決し、車内のコンセントから直接電気を取り出せる給電機能を備え、S-AWC（※1）による安定した走行により安心して移動できるPHEVを開発しました。

今後も電動化技術、先進安全技術、快適性能を備えた三菱自動車らしい価値のある電動車を提供し、電動車の普

及を通して環境への貢献と、お客様への安全・安心・快適を提供していきます。

※1：S-AWC：スーパーオールホイールコントロールの略称。クルマの操縦性と安定性を飛躍的に向上させるシステム。

環境への貢献

当社の『アウトランダー PHEV』は、2013年に世界初のSUVのPHEVとして日本で発売後、これまでに世界での累計販売台数は約30万台（※2）を超えています。当社は、火力発電の多いアセアン地域では、現時点でLCA（※3）の観点からPHEV/ハイブリッド自動車（HEV）の方がEVよりもCO₂排出量が低いと考えています。このため、アセアン各国の発電事情にあわせて当社の最適な電動車を展開していく予定です。

また、軽商用EV『ミニキャブ・ミーブ』を活用した実証実験を国内、タイ、インドネシアで様々なパートナーとともに展開し、新たなビジネスモデルによるカーボンニュートラル社会の構築を目指しています。

※2：2022年1月時点

※3：LCA：Life Cycle Assessmentの略称。

生産から廃棄までの環境負荷をトータルして算出し評価する手法。



実証実験で活用されている軽商用EV『ミニキャブ・ミーブ』（インドネシア）

SUV ユーザー視点の安心・安全

新型『アウトランダー』（PHEVモデル）は、自然災害をはじめとする緊急時に情報発信を行う災害対策車両として、防災アプリを運営する特務機関NERV（ゲヒルン株式会社）に採用されました。災害による長期停電や通信網途絶に備え、「防災情報配信サービスの継続」と「近隣自治体への支援」を目的とした同車両は、被災地での活動に欠かせない機動性と安全性能、環境性能、給電機能が高く評価されています。

進化した PHEV システム+ S-AWC

新型『アウトランダー』（PHEVモデル）は、当社の電動化技術と四輪制御技術の粋を集め、新開発のプラットフォームや先進技術を採用したフラッグシップモデルです。

先代モデルからPHEVシステムが刷新され、前後モーターの出力が向上し、ツインモーター 4WDを軸とした車両運動統合制御システム・S-AWCの進化でSUVとは思えない軽快なハンドリングを可能にしました。

2021-2022日本カー・オブ・ザ・イヤー（※4）において「テクノロジー・カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。

※4：日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会が主催



新型『アウトランダー』（PHEVモデル）